

**[成果情報名] タブノキ害虫ホシベニカミキリの防除適期**

[要約]ホシベニカミキリ成虫は5月中旬以降発生し最長約50日生存する。7月末まで活動するので、薬剤散布一回目を初発期間の5月中旬に第二回目を6月初旬に行う。

[キーワード] タブノキ、ホシベニカミキリ、防除適期

[担当] 長崎県農林技術開発センター・森林研究部門

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分] 林業

[分類] 普及

[作成年度] 2021年度

---

**[背景・ねらい]**

タブノキは本県内に広く分布しており、海岸防災林や、街路樹および緑地公園にもよく植栽されている。タブノキは天然林・人工林に関係なくホシベニカミキリ(写真1a)に被害されており、一度侵入すると、同じ木で繰り返し繁殖を行い、幹・枝に空洞が生じ(写真1b)、風による折損被害を起こす。

一般的な生態は知られているものの、地域での発生生態や防除に関する情報は少ない。そこで、センター内のタブノキについて発生調査を行い、防除適期を調査した。

**[成果の内容・特徴]**

1. 成虫の発生は5月14日から5月24日までに17頭を確認している(表1)。
2. 15頭の生存期間調査では平均23.3日で、最長49日間生存している(図1)。
3. 6月初旬に平均4.8cm径の枝上面に長さ7.7cm・巾2.8cmの大型の産卵床が出現する。  
(写真1d)この中に複数個の産卵を行う(サイズは9個の平均値:枝径 $4.8 \pm 0.35$ 、長さ $7.7 \pm 0.29$ 、巾 $2.8 \pm 0.11$ )。

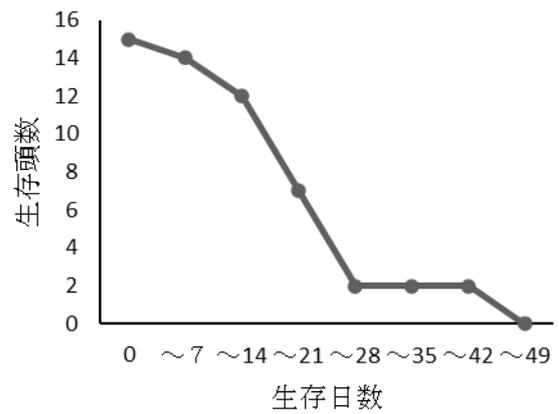
**[成果の活用面・留意点]**

1. 樹木医や公園管理者および道路管理者のタブノキの管理計画に活用できる。
2. 得られた発生結果は単年度の結果であるため気象による多少の年変動がある。このため、成虫発生と同時に食害されて穴の空いた葉(写真1c)や軸が折れて黒く垂れさがる枝が見られるので、成虫発生の目安とする。
3. 薬剤はMEP乳剤(80%)が登録されている。
4. 食害する部分は当年枝の緑軸と新葉なので、一回目の散布では、その部位を中心に薬剤散布する。
5. 二回目散布の時には5cm程度の横方向に伸びている枝上面に産卵床があることを想定して散布すれば、当年若齢幼虫を含めて効率的に駆除できる。
6. 2年1世代なので、孵化後3年目に羽化する。このため3か年の継続防除が必要である。

[具体的データ]

表1 発生調査結果

採取月日	採取頭数		計
	♀	♂	
5月7～13日	0	0	0
5月14日	6	4	10
5月17日	1	1	2
5月18日	0	1	1
5月19日	0	3	3
5月24日	0	1	1
5月25～6月7日	0	0	0
計	7	10	17



注) タブノキ枝葉を給餌して個体別に容器飼育した。

図1 飼育による生存調査結果



写真1 ホシベニカミキリの生態

[その他]

研究課題名：森林病虫害防除事業

予算区分：県単

研究期間：2021年度

研究担当者：吉本貴久雄